

地方創生推進交付金「日本有数のカルシウム含有量を誇る名湯『鶴巻温泉』と表丹沢（大山）の広域連携によるまちづくり・経済活性化事業」概要

背景と課題

鶴巻温泉は日本有数のカルシウム含有量を誇る名湯であり、東京の奥座敷とも言われている。小田急小田原線開通時から温泉地として知られており、当該駅周辺は、地域住民への商業等の機能を持った拠点であると同時に、温泉地という地域特性を持っている。また、秦野市・伊勢原市・厚木市をつなぐ表丹沢（大山）は、神奈川県有数の観光地のひとつであり、日本三百名山や関東百名山のひとつである。

秦野市としては、重要な観光資源として、鶴巻温泉と大山との広域観光周遊ルート形成を図るとともに鶴巻温泉へ周遊する登山者のニーズに応える交通アクセスの円滑化を図ることで、まちづくりや交流活性化による経済活性化に取り組むことが重要である。

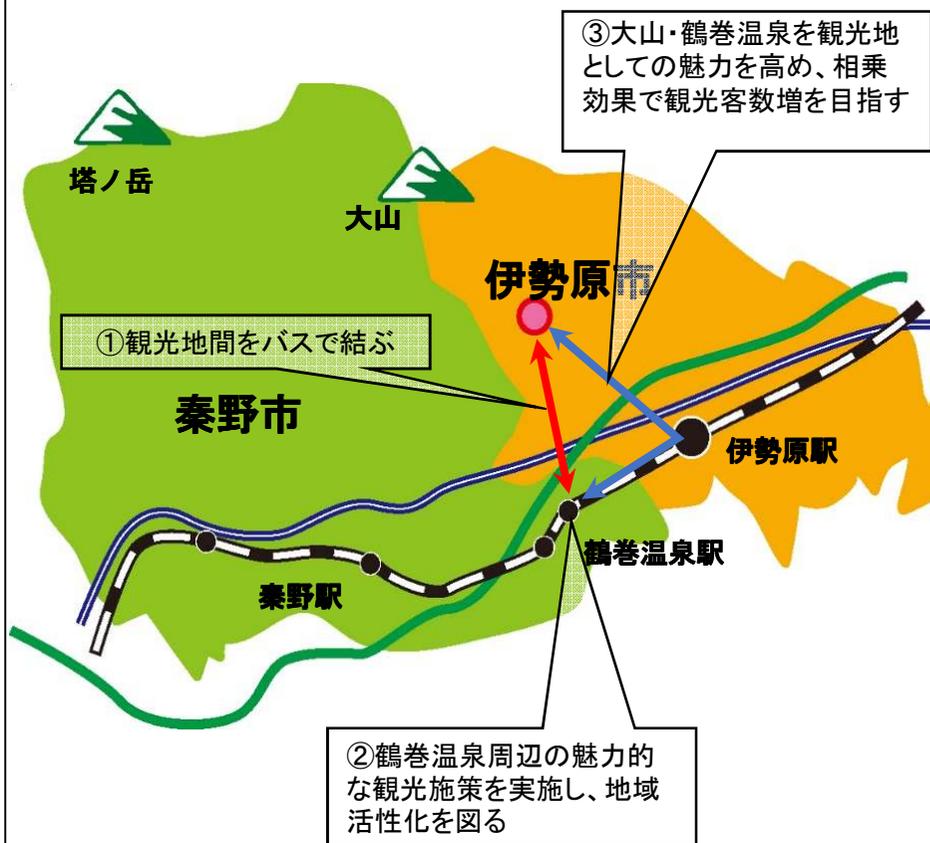
事業の概要（平成28年度～平成30年度）

- ① 市民や観光客のニーズ調査を行い、地元の商店や人材を活用した地域の商業振興策（経済活性化策）を実施する。
- ② 大山と鶴巻温泉をつなぐ交通手段（バス路線）の検討、実証運行を行い、路線の設置に向けて事業者を財政・広報両面から支援する。
- ③ 経済活性化策が持続可能となるようPRを実施する。

地方創生への効果

- ① 自立性 実証実験やPR活動により、バス事業者の自主運行を目指す。
- ② 官民協働 実証実験に対する財政支援を行いながら、官民協働によるPR活動により本格運行を目指す。
- ③ 重要業績評価指標 鶴巻温泉の観光客数の増、鶴巻温泉への市民の年間訪問割合の増、観光地間バス利用者数の増

対象地域の地図



観光地交流活性化協議会と実証運行の実施状況

推進組織

名称 秦野市観光地交流活性化協議会
会長 高橋洋二(東京海洋大学名誉教授)
事務局 秦野市環境産業部観光課
構成員 東洋大学教授(国際観光学部)、東洋大学教授(国際学部)、鶴巻地区住んでよかったまちづくり協議会、神奈川中央交通(株)、小田急電鉄(株)、大山観光電鉄(株)、秦野商工会議所、鶴巻温泉組合、鶴巻商店会連絡協議会、(一社)秦野市観光協会、(株)横浜銀行、中栄信用金庫、国土交通省関東運輸局、県国際観光課、県湘南地域県政総合センター、秦野警察署、伊勢原市、秦野市

平成28年度・29年度協議会の実施状況

- ①平成29年2月17日 検討方針、協議会の進め方、実態調査結果と論点整理
- ②平成29年3月20日 前回議事要旨、協議会の進め方、運行計画素案、実証運行時の受入側の課題対応
- ③平成29年6月2日 議事の確認、大山ケーブル～鶴巻温泉間バス実証運行計画、バス運行に合わせた地域活性化イメージ
- ④平成29年10月11日 鶴巻温泉駅～大山ケーブル間バス実証運行計画、実証運行に合わせた鶴巻温泉地区の地域活性化策、バス実証運行に合わせた実態調査概要
- ⑤平成30年3月28日 実証運行結果報告、今後について(予定)

鶴巻温泉観光客受入環境検討会

バスの実証運行に際し、鶴巻温泉地区の観光客受入側の課題対応について、商店会及び温泉組合を中心とした検討会を開催

- ①平成29年4月27日 大山～鶴巻温泉間バス実証実験計画案、受入側の課題対応について
- ②平成29年5月18日 鶴巻温泉の活性化を踏まえた地域振興策、バス実証運行計画案
- ③平成29年6月29日 鶴巻温泉地区の魅力発見まち歩き調査結果、実証運行計画、地域活性化策
- ④平成29年9月29日 実証運行計画、地域活性化策、バス実証運行に合わせた実態調査概要
- ⑤平成30年2月20日 大山～鶴巻温泉バスの実施結果、バスに合わせたイベント及び地域活性化、商店会へのアンケートの実施

実証運行の実施状況

- 実施期間 平成29年11月3日～平成30年2月4日(12/31、1/1運休)
- 運行ダイヤ
鶴巻温泉発 9:00・10:50
大山ケーブル発 9:50・11:40・13:10・14:20・15:00・15:40・16:10・17:30
- 運行ルート
鶴巻温泉駅～三の宮～大山駅～社務局入口～あたご滝～良弁滝～大山ケーブル
- 運賃
鶴巻温泉駅～大山ケーブル 現金310円、IC309円
三の宮～大山ケーブル 現金270円、IC268円
鶴巻温泉駅～三の宮 現金190円、IC186円
- 運行事業者
神奈川中央交通西(株)
- 観光イベントの実施
大山の紅葉が見頃となる11月中旬は、多くの観光客をお出迎えするため、鶴巻温泉駅にて地元の商店会、温泉組合及び自治会による物産販売、観光案内などの観光イベントを実施
(1) 実施日 11月18日(土)、19日(日)、23日(祝木)、25日(土)、26日(日)
(2) 実施場所 鶴巻温泉駅北口広場
- 実証運行実績
運行便数: 10便(往路2便、復路8便)×30日 合計300便
利用者数: 3,693人(1便当たり12.3人)
11月1,957人(10日間)、12月764人(9日間)、
1月863人(9日間)、2月109人(2日間)

【実証運行の様子】

